

新たな国際秩序の誕生：ジェフリー・サックス

2025年4月27日

出所：The Star

アジア、アフリカ、ラテンアメリカの地政学的影響力が、その経済力の台頭に見合うようになったとき、多極化の世界が誕生する。

ジェフリー・D・サックス



ジュネーブの国連本部、万国会議場前の「万国通り」

第一次世界大戦後、ファシスト政権下のイタリアで政治犯として収監されていた哲学者アントニオ・グラムシは、次のように的確に述べた。「危機とは、まさに古いものが死に絶え、新しいものが生まれられない状態にあることだ。この過渡期には、さまざまな病的な症状が現れる」。

1 世紀後、私たちは、また別の過渡期にあり、病的な症状は至る所に現れている。米国主導の秩序は、終焉を迎えたが、多極化世界は、まだ誕生していない。緊急の優先課題は、平和と持続可能な開発の道を維持できる新たな多国間秩序を誕生させることだ。

私たちは、500年以上前にクリストファー・コロンブスとバスコ・ダ・ガマの航海で始まった人類史の長い波の終わりに立っている。これらの航海は、ナポレオン戦争の終結

(1815年)から第一次世界大戦(1914年)の勃発まで、イギリスが世界支配を確立した4世紀以上に及ぶヨーロッパの帝国主義時代を開始した。始動させた。

第二次世界大戦後、米国は、世界の新たな覇権国としての地位を確立した。この長い期間、アジアは、後景に追いやられた。広く用いられるマクロ経済推計によると、1500年にはアジアが世界総生産の65%を占めていたが、1950年にはその割合は19%まで低下した(世界人口の55%を占めていたのに対し)。

第二次世界大戦後80年間で、アジアは、世界経済における地位を回復した。日本は、1950年代と1960年代の急速な成長を牽引し、その後1960年代から1970年代にかけて「アジアの四小龍」(香港、シンガポール、台湾、韓国)が続き、1980年ごろから中国、1990年ごろからインドが台頭した。

現在、IMFの推計によると、アジアは、世界経済の約50%を占めている。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカの地政学的影響力が、その経済的影響力と一致する時、多極化世界が誕生する。この必要な地政学的な変化は、米国と欧州が国際機関に組み込まれた古い特権と古い思考に固執しているため、遅れている。

現在でも、米国は、西半球のカナダ、グリーンランド、パナマなどを脅迫し、国際ルールに明白に違反する一方的な関税や制裁で世界全体を脅かしている。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカは、団結し、共同の声を上げ、国連での投票権を強化して、新たな公正な国際システムを導く必要がある。改革が必要な重要な機関の一つは、国連憲章に基づく平和維持の独特な責任を負う国連安全保障理事会だ。

国連安全保障理事会の5つの常任理事国(P5) — イギリス、中国、フランス、ロシア、アメリカ — は、1945年の世界を反映しており、2025年の世界を反映しているわけではない。ラテンアメリカやアフリカの常任理事国は、存在せず、アジアは、世界人口の約60%を占めるにもかかわらず、5つの常任理事国中1つしか占めていない。

長年、新たな国連安全保障理事会常任理事国候補が、数多く提案されてきたが、既存のP5は、特権的な地位を固守してきた。

国連安全保障理事会の適切な再編は、今後何年にもわたって阻害されるだろう。しかし、今すぐ実現可能な重要な変更が一つあり、これは、世界全体に利益をもたらすものだ。

いかなる基準で測っても、インドは、国連安全保障理事会の常任理事国としての地位を疑いなく得るに値する。インドの国際外交における卓越した実績を考慮すれば、その国連安全保障理事会への加盟は、世界平和と正義のための重要な声を高めることにもなる。

あらゆる面で、インドは、偉大な大国である。インドは、2024年に中国を追い抜き、世界一の人口を擁する国となった。国際価格(購買力平価)で測定した世界第3位の経済大

国で、GDP は 3.5 兆ドル（中国 40 兆ドル、米国 30 兆ドルに次ぎ、他のすべての国を上回る）。

インドは、年間約 6% の成長率を誇る世界最速の主要経済成長国だ。インドの GDP（購買力平価）は、21 世紀半ばまでに米国を追い越す見込みだ。インドは、核保有国であり、デジタル技術革新の先駆者であり、宇宙開発プログラムで世界をリードする国だ。

国連安全保障理事会の常任理事国候補として挙げられている他のどの国も、インドの資格に及ばない。

インドの外交力についても同様だ。2023 年の G20 議長国としてのインドの卓越したリーダーシップは、その巧みな外交力を示した。2024 年のロシアと NATO 諸国間の深刻な対立にもかかわらず、インドは、G20 を大成功に導いた。

インドは、G20 の合意を達成しただけでなく、アフリカ連合を G20 の新たな常任メンバーとして迎えるという歴史を作った。

中国は、P5 における唯一のアジア大国としての独自の地位を守るため、インドの国連安全保障理事会常任理事国席支持には消極的だ。しかし、インドの常任理事国席獲得は、中国の重要な国家利益を強化し、支えることになる。

これは、米国が関税と制裁を通じて、中国の経済的繁栄と技術的優位性の向上を阻むための最後の手段として間違った努力を展開している現状において、特に重要な点だ。

中国が、インドの国連安全保障理事会常任理事国支持を表明すれば、地政学が、真の多極化世界を反映する方向で再編されていることを明確に示すことになる。中国は、国連安全保障理事会にアジアの同等のパートナーを創出する一方で、米国と欧州の地政学的変化への抵抗を克服するための重要なパートナーを獲得することになる。

中国が、インドの国連安全保障理事会常任理事国入りを提唱すれば、ロシアは、即座に同意し、米国、英国、フランスもインドに投票するだろう。

最近の米国の地政学的な暴挙—気候変動対策からの撤退、持続可能な開発目標（SDGs）への攻撃、WTO の核心的なルールに反する一方的な関税の押し付け—は、衰えゆく旧秩序の「病的な症状」を如実に反映している。真に多極的で公正な国際秩序への道を拓く時が来た。

ジェフリー・D・サックスは、コロンビア大学教授兼持続可能な開発センター所長。2002 年から 2016 年まで同大学の地球研究所所長を務めた。また、国連持続可能な開発ソリューションズ・ネットワーク会長、国連ブロードバンド開発委員会委員も務める。3 人の国連事務総長に顧問を務め、現在はアントニオ・グテーレス事務総長の下で SDG アド

ボケイトとして活動している。サックスは、最近の著作に『新しい外交政策：アメリカ例外主義を超えて』（2020年）がある。その他の著作には、『新しいアメリカ経済の構築：スマート、フェア、サステナブル』（2017年）と、潘基文氏との共著『持続可能な開発の時代』（2015年）がある。